

F★★★★

ホルムアルデヒド登録認定商品

非トルエン・キシレン塗料

(一社)日本塗料工業会 室内環境対策の自主表示  
ガイドライン「非トルエン・キシレン塗料」~に適合

水性反応硬化形微弾性ホールド材

JIS A 6909 可とう形改修塗材 E 主材

# アレスホルダー GII

作業性が向上し  
使いやすくなりました。

下地調整材・下塗材・中塗材の  
3つの機能がひとつになった  
非セメント系1液型  
水性微弾性ホールド材

透湿下地

溶剤上塗り・弾性上塗りOK

ALC面 直塗り可能

ローラーが  
軽い

パターンが  
合わせ易い

跳ね返りが  
少ない

下地KING

# アレスホルダー-GII

容量：16kg



## ■適用上塗り材

(溶剤系)
セラMフッソ中塗～セラMフッソ
セラMシリコンⅢ中塗～セラMシリコンⅢ
コスモマイルドシリコンⅡ
アレスセラレタン
セラMレタン
カンベ1液MレタンHG 等

(水性系)
アレスアクアセラフッソ
★アレスアクアシリコンACⅡ
★コスモシリコン
★アレスアクアレタン
★コスモレタン
★アレスアクアグロス 等

★は本品との組み合わせで JIS A 6909 可とう形改修塗材 E 上塗材に適合する事を確認しています。

(単層弾性系)
シリコンテックス
アレスアクアビルド 等

## ■標準改修塗装仕様

工 程	塗料と処置	希釈率 (重量%)	標準所要量 <sup>(注1)</sup> (kg/m <sup>2</sup> /回)	塗装方法	塗装回数	塗装間隔 (23℃)	
1	素地調整						
2	下地調整材 下塗り 中塗り	アレスホルダー-GII 上水	5～10	0.3～0.5	中毛ローラー	1	8時間以上 7日以内
			1～5	0.8～1.5	多孔質ローラー		
			7～10	0.7～1.0	リジシガン		
			7～15	0.7～1.2	エアレス <sup>(注2)</sup>		
3	上塗り				2		

注1) 所要量は、被塗面 1m<sup>2</sup> 当たりの塗料 (希釈する前) の使用質量で、飛散などのロスを含みます。  
 ※ 塗付け量 (実際に付着させる塗料の質量 (ロス無)) については最寄営業所までお問い合わせください。  
 注2) ブランジャー式高粘度用吹付け機を使用してください。

## ■新設 ALC 面仕様 (新規 ALC パネルの下地調整材として使用する場合)

※ 寒冷地で、湿気や内部結露により ALC 自体の含水率が高くなる環境ではフクレが発生する事があります。このような環境と予測されるにはセメント系の下地調整材を使用してください。

工 程	塗料と処置	希釈率 (重量%)	標準所要量 <sup>(注1)</sup> (kg/m <sup>2</sup> /回)	塗装方法	塗装回数	塗装間隔 (23℃)	
1	素地調整			エフロ・レイタンス・ゴミ・汚れなどをワイヤーブラシ・サンドペーパー・ウエスを用いて除去・清掃する。			
	下地調整材	5～10	0.5～	中毛ローラー しごき塗り●	1	8時間以上 7日以内	
2	下塗り 中塗り	アレスホルダー-GII 上水	5～10	0.3～0.5	中毛ローラー	1	8時間以上 7日以内
			1～5	0.8～1.5	多孔質ローラー		
			7～10	0.7～1.0	リジシガン		
			7～15	0.7～1.2	エアレス <sup>(注2)</sup>		
3	上塗り				2		

注1) 所要量は、被塗面 1m<sup>2</sup> 当たりの塗料 (希釈する前) の使用質量で、飛散などのロスを含みます。  
 ※ 塗付け量 (実際に付着させる塗料の質量 (ロス無)) については最寄営業所までお問い合わせください。  
 注2) ブランジャー式高粘度用吹付け機を使用してください。  
 ● 中毛ローラーで充分な量 (0.5kg/m<sup>2</sup> 以上) を塗り付け後、速やかに左官刷毛によるしごき塗り目止めを行ってください。

## 施工上の注意事項

- 安全・衛生に注意し正しく製品をご使用いただくために特に下記の事項を守ってください。
- ① 素地のアルカリ度は pH10 以下、表面含水率は 10% 以下 (ケット科学社製 CH-2)、または 5% 以下 (ケット科学社製 HI-500 シリーズ: コンクリートレンジ) の条件で塗装してください。
  - ② 躯体や構造からの漏水がある場合、止水処理を十分行ってください。
  - ③ シーリング面への塗装は極力避けてください。汚染や粘着、ワレの原因となります。やむをえず塗装する場合には、ノンブリードタイプのシーリング材を用いることとし、「シーブラ」または「マルチタイルコンクリートプライマー EPO」をバインダーとして挟むことで不具合を軽減することができます。
  - ④ 気温 5℃ 以下、湿度 85% 以上、降雨、降雪、強風が予想される場合は塗装をしないでください。
  - ⑤ 旧塗膜の劣化が著しい部分はサンダー、ワイヤーブラシ等で除去し、加圧水洗後十分乾燥させてから塗装をしてください。

- ⑥ 気温 0℃ 以下、40℃ 以上での保管は避けてください。
- ⑦ 軽量モルタル、ALC パネル、高断熱型窯業サイディングおよび発泡ウレタンなどを使用した壁断熱工法などの「高断熱型外壁」を塗り替える際、旧塗膜が溶剤系アクリルトップである場合は蓄熱や水の影響、塗装後の環境などいくつかの条件が重なることで、塗膜のふくれが生じることがあります。旧塗膜をラッカーシンナー拭きして簡単に塗膜が再溶解する場合は、本品施工前に「マルチタイルコンクリートプライマー EPO」を塗装してください。
- ⑧ 旧塗膜がスタッコのような大柄模様の場合は各工程の塗料を十分に塗り込んでください。
- ⑨ 押出成型板・GRC 板など本品施工前にはエポキシ樹脂下塗料「浸透形 M シーラー」などを 2～3 回に分けて十分塗付してください。
- ⑩ 弾性スタッコへの塗装はできません (ふくれの原因となります)。
- ⑪ 強溶剤形の上塗料を塗装した場合、旧塗膜・シーラーの種類によってはちがみ・シワなどの仕上がり不良が生じることがあります。

## ご使用上の注意事項

### 予 防 策

- 取り扱い作業中・乾燥中ともに換気の良い場所で使用し、粉じん・ヒューム・ガス・ミスト・蒸気・スプレーを吸入しないこと。必要な保護具 (帽子・保護めがね・マスク・手袋等) を着用し、身体に付着しないようにすること。
- 吸入に関する危険有害性情報の表示がある場合、有機ガス用防毒マスク、又は、送気マスクを着用すること。
- 皮膚接触に関する危険有害性情報の表示がある場合、頭巾・えり巻きタオル・長袖の作業着・前掛けを着用すること。
- 火気を避けること。静電気放電に対する予防処置を講ずること。
- 火災を発生しない工具・防爆型の電気機器・換気装置・照明機器等を使用すること。
- 裸火又は高温の白熱体に噴霧しないこと。
- 本来の目的以外に使用しないこと。
- 指定材料以外のものとは混合 (多液品の混合・希釈等) しないこと。
- 缶の取っ手を持って振ったり、取っ手をロープやフックで吊り下げたりしないこと。
- 取り扱い後は、洗顔、手洗い、うがい、及び、鼻孔洗浄を十分行うこと。
- 使用済みの容器は、火気、溶接、加熱を避けること。
- 本品の付いた布類や本品のかす等は水に浸して処分すること。

### 対 応

目に入った場合: 直ちに、多量の水で洗うとともに医師の診察を受けること。  
 皮膚に付着した場合: 直ちに拭き取り、石けん水で洗い落とし、痛みや外傷等がある場合は、医師の診察を受けること。

- 吸入した場合: 空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けること。  
 飲み込んだ場合: 直ちに医師に連絡すること。無理に吐かせないこと。  
 ● 漏出時や飛散した場合は、砂、布類 (ウエス) 等で吸い取り、拭き取ること。  
 ● 火災時には、炭酸ガス、泡、又は、粉末消火器を用いること。

### 保 管

- 指定容器を使用し、完全にふたをして湿気のない場所に保管すること。
- 直射日光、雨ざらしを避け、貯蔵条件に基づき保管すること。
- 子供の手の届かない場所に保管すること。又、関連法規に基づき適正に管理すること。

### 廃 棄

- 本品の付いた布類や本品のかす、及び、使用済み容器を廃棄するときは、関連法規を厳守の上、産業廃棄物として処分すること。(排水路、河川、下水、及び、土壌等の環境を汚染する場所へ廃棄しないこと。)

### 施工後の安全

- 本製品は揮発性の化学物質を含んでいますので、塗装直後の引渡しの場合は、施主様に対して安全性に十分に注意を払うように指導してください。例えば、不特定多数の方が利用される施設などの場合は、立看板などでベンキ塗り立てである旨を表示し、化学物質過敏症ならびにアレルギー体質の方が接することのないようにしてください。

詳細な内容については安全データシート (SDS) をご参照ください。

関西ペイント販売株式会社

関西ペイントホームページ  
[www.kansai.co.jp](http://www.kansai.co.jp)

北海道 TEL (0133) 64-2424 FAX (0133) 64-5757  
 東北 TEL (022) 287-2721 FAX (022) 288-7073  
 北関東 TEL (028) 637-8200 FAX (028) 637-8223

東京 TEL (03) 5711-8905 FAX (03) 5711-8935  
 中部 TEL (052) 262-0921 FAX (052) 262-0981  
 大阪 TEL (06) 6203-5701 FAX (06) 6203-5603

中国 TEL (082) 262-7101 FAX (082) 264-3285  
 四国 TEL (0877) 24-5484 FAX (0877) 24-4950  
 九州 TEL (092) 411-9901 FAX (092) 441-3339

※ 製品改良のため仕様は予告なしに変更することもございますのでご諒承ください。

(21年06月42刷PPO) カタログ No. 324